

国際的にも高い評価を得ている山形国際ドキュメンタリー映画祭。
この映画祭で過去に上映され、話題となった5作品を一挙に上映します。
いずれも日本語字幕付き。

亀山トリエンナーレ

2022

特別企画―山形国際ドキュメンタリー映画祭より

世界のドキュメンタリー作品上映



〈自画像：47KMの窓〉

入場無料

会場：亀山市市民協働センター 2F
〒519-0125 三重県亀山市東町 1-8-7
tel:0595-84-5800


亀山トリエンナーレ
2022

2022年10月30日(日)―11月19日(土)
<http://kameyamatriennale.jp/>



〈主催〉亀山トリエンナーレ実行委員会 〈事業協力〉亀山市 〈後援〉山形国際ドキュメンタリー映画祭



自画像：47KM の窓

(中国 / 2019 / カラー / 110 分 / 監督：ジャン・モンチー)

中国山間部の小さな村。この村を見下ろす小屋の壁にはスローガン「〇〇主義が中国を救う」のかすれた文字が。村の老人は 85 年に及ぶ自らの半生を語り、一方主人公の少女は村の老人たちの似顔絵を描き続けている。風景の痕跡として残る歴史や経済的な衰退が浮き彫りになり、小さな村は厳しい冬の終わりに鮮やかな色彩で染まる。



気高く、我が道を

(イラン / 2019 / カラー / 64 分 / 監督：アラシュ・エスハギ)

舞台はイランの片田舎。牛を飼い、田植えをしながら田舎暮らしをしている 80 歳の男。農作業後は入念に化粧をし、女装してダンスを始める。昔は巡業やキャバレーで仲間と踊っていたが、1979 年のイラン革命後は、女性の踊りや女装した男性の踊りが完全に禁止され、男は鬱屈した日々を送る。牛舎で牛を愛でながら一人喜々として踊る男の姿が心に残る。



祖国—イラク零年

(イラク、フランス / 2015 / カラー / 334 分 / 監督：アッパース・ファディール)

2003 年春のイラク・バグダッド。ある家族の日常は、差し迫る戦争の予感を漂わせながらも穏やかに過ぎてゆく。そして連合軍の侵攻後、爆撃の跡が生々しく残る街に疎開先から戻った家族を待ち受けていたのは、常に死を意識して生きざるを得ない毎日だった。2 年間の記録を通じて、戦争は日常の延長でいつの間にか始まり、親しい人の死と喪失はあっけなくやってくることを、私たちは知る。(途中休憩あり)



殊勲十字章

(アメリカ / 2011 / カラー / 62 分 / 監督：トラヴィス・ウィルカーソン)

ベトナム戦争に従軍した初老の男が意気揚々と思い出話にふけている。面白可笑しく語られる戦争体験は、宗教画のような画面構成と小説のような章立てで見る者の不安を呼び起こす。当時兵士が戦場でとったカラーフィルムと、現地で流れていたかもしれない華やかな歌謡曲は、見るものを引き付け、テーマをより一層効果的に際立たせている。監督とその父親、弟が出演。



阿仆大 [アブダ]

(中国 / 2010 / カラー / 145 分 / 監督：ホー・ユエン)

中国雲南省。少数民族の農夫アブダは、老いて体の自由が利かなくなった父親との二人暮らし。暗い室内で薄明かりを頼りに父が服を着て、たばこに火をつけ、床のうえに起き上がるのを助ける。アブダ本人は、父親の介護の傍ら、果樹の手入れや水くみに忙しい。時には近所の老人が来て不人情な息子の愚痴をこぼす。山深い村に生きる父子を、悠揚たるリズムと深みのある映像で見つめ、生と死のドラマを映し出す。

上映スケジュール

作品名	11/1 (火)	5 (土)	6 (日)	11 (金)	12 (土)	13 (日)	18 (金)	19 (土)
自画像：47KM の窓 (中国)		15:30						11:00
気高く、我が道を (イラン)	15:00		13:00					
祖国—イラク零年 (イラク・フランス)					10:30		12:00	
殊勲十字章 (アメリカ)	16:15		16:00					
阿仆大 (中国)				15:00		15:00		